



平成25年度  
東北大学大学院教育学研究科  
震災子ども支援室 “S-チル”

年次報告書

これは、ひとりの個人の年1200万円10年間の寄附を原資とし、  
その他多くの方々の寄附をいただいで活動しています。



東北大学大学院教育学研究科  
震災子ども支援室 “S-チル”

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1  
TEL&FAX : 022-795-3263  
E-MAIL : s.children@sed.tohoku.ac.jp



# 平成25年度 年次報告書

## 目次

■ 概 要・スタッフ	01
■ 活動内容	
1. 相談実績	03
2. 里親サロン	04
3. 震災子ども支援室主催による会議、シンポジウム、研修会など	03
4. 研修講師の派遣	07
5. 会議、情報交換会出席	07
6. 関連自治体・団体への訪問	07
7. 講演会、研修会等出席	08
8. 支援室来室対応、情報交換	08
9. 報道関係、来室対応	08
10. 広報・出版物・報告書	09
11. その他の活動	09

# 平成25年度 「震災子ども支援室」活動報告

## ●概要

震災から3年、開室からは実質2年目となる本年度は、支援室の組織化、活動内容の調整が行われた。開室当初は、教育学研究科教育ネットワークセンター内に設置され、ほぼ独立組織の性格を持っていたが、平成25年4月より、震災子ども支援室運営委員会として研究科内組織として位置づけられた。これにより、活動報告の場が研究科内に確保され、多方面からの視点を活かした活動方針や中長期的な活動内容の議論、そして危機対応への示唆を受けることも可能となった。

活動と業務内容については、前年度を継続・充実するもの、ニーズの変化に応じて縮小するもの、新たに開始されるものなど、業務を概観して調整が行われた。

当事者相談は重要な継続事業のひとつである。電話相談では、周知用のチラシとカードを児童生徒に繰り返し配布したこともあり、一定数の入電が続いた。保健福祉課や保育所等の依頼からつながった訪問相談や長期継続事例への対応も本年度は増加した。訪問相談や長期継続事例は、支援の全体像を踏まえた支援計画と個々の訪問の意義を丹念に検討しながら進める必要があり、利用者や関連機関との相互調整にも注意が払われた。

里親支援も重要な継続業務であるが、本年はさらに発展的な展開がみられた。里親サロンの開催地は、これまで県北(気仙沼、南三陸、石巻、東松島地域)が中心であり、県南地域への進出が課題であった。本年度、宮城県中央児童相談所との連携により、県南で里親サロンを開催することができたが、残念ながら当日の参加者はなく、実施や周知に関しては課題が残される結果となった。従来の里親サロンは順調に実施され、年末には里親サロンの参加者と養育里親の方々に声をかけて懇親会を催すまでとなり、参加者の方々から好評を得た。一方、前年度は試行的に行っていた東部児童相談所里親担当者対象のスーパーバイズであるが、本年度は、1年に4回の定期開催とすることができた。また、里子が18歳となり児童相談所の関与は終了する事例に対して、その後の相談の選択肢として震災子ども支援室を周知していただく働きかけも可能となった。

支援室主催のシンポジウムでは、電話相談による震災支援を取り上げた。震災直後には幾つもの組織が電話相談を立ち上げ、多くの利用を得ていたが、時間とともにその活動を終了していることが多い。当日は、「仙台いのちの電話」「からころステーション」「S-チル」が話題提供者となり、それぞれが震災支援としての電話相談によって見えてきたことを持ち寄り、今後の電話相談活動の意味を考え、他の活動形態と電話相談を組み合わせた多様な支援の方法を探る機会となった。

前年度活動の縮小として、特定支援団体へのストレスマネジメント活動がある。震災の直後から支援者支援として継続的に行ってきたが、当該団体のセルフマネジメントが可能となったことから、収束へむけたかかわりを意識することとした。

新しい取り組みとして、調査研究活動を通じた社会還元のために親族里親へのヒアリング調査を実施した。児童

相談所の協力を頂き、里親サロンを利用している親族里親のうち調査協力の許可を得られた方々への面接調査を実施した。親族里親として子育てをはじめにあって考えたこと、困ったこと、よかったこと、ソーシャルサポートへの意見等について語っていただいた。来年度は、この結果をまとめて冊子を作成し、里親サロンに参加していない里親家庭にも配布することを考えている。

東部保健福祉事務所の主催した震災遺児支援事業への関与も新たな取り組みであった。本年度は継続事業ではなかったが、より長期的な開催のために、今後の連携と実現可能性を探っていく予定である。

支援室相談員の資質向上にも目が向けられた。新しい試みとして、外部講師によるスーパービジョン研修を定期的に行うことを決め、現在準備を進めている。これは、事例対応についての方針や心構え等について、学外から専門家の助言指導を得ることにより、相談員が良質で安定した相談活動を行うことを目指すものである。本年度中に制度を整え、平成26年4月より開始する予定である。

震災から時間が経つ中で支援を継続していくために、今後も現場のニーズへの感度を高め、支援能力を充実させていく努力を続けていきたいと考えている。(加藤 道代)

## ●スタッフ

室長：加藤 道代 (教育学研究科人間発達臨床科学講座 教授 臨床心理士)

相談員：平井 美弥 (臨床発達心理士)

相談員：押野 晶子 (保健師・看護師)

相談員：大堀 和子



平成23年3月20日 石巻市中瀬公園



平成25年3月20日 石巻市中瀬公園



# 1 相談実績

相談活動は、当事者相談をはじめとし、支援者支援、震災に関わる多岐の事柄に対して行った。

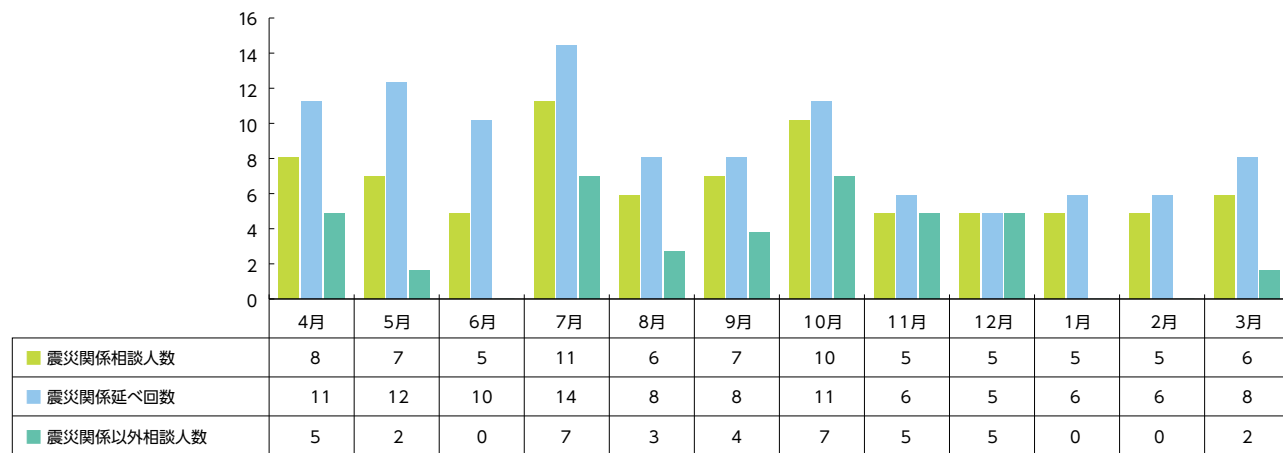
## ●当事者相談

当事者相談は、子どもや保護者からの電話相談、面接相談（来所、訪問）を行っている。他に、他機関からの相談を受けたり、ニーズに基づいて情報や機関を紹介するケースコーディネーションや、他機関への助言等もを行っている。

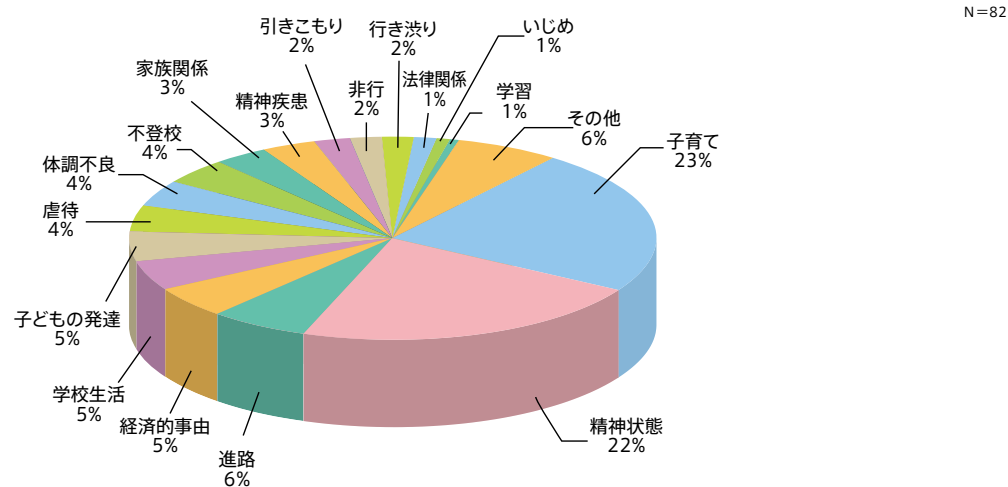
	実数（人数）		延べ相談回数
	新規	継続	
電話相談 （震災関係以外）	77 (36)	5 (0)	145 (40)
訪問、来所ケース	15	3	57
ケースコーディネーション	5	0	17
組織運営に関するアドバイス	2	0	3
支援室内ケースカンファレンス	18	22	40

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

2013年度 電話相談件数



電話相談種別グラフ



N=82

## ●専門家相談・支援者相談

専門家相談・支援者相談は、専門家に対するストレスマネジメントや助言、運営実施への協力である。

### 1 あしなが育英会

震災による遺児支援活動を行っている、あしなが育英会の職員を対象としたストレスマネジメント事業（内容は下記参照）

### 2 東部児童相談所里親担当

里親担当者が対応している困難事例に対してスーパーバイズ事業

### 3 南三陸町保健福祉課

H24年から開催されている「南三陸町子ども支援連絡調整会議」運営実施への協力

### 4 東部保健福祉事務所

H25年に開催された「震災遺児ひとり親家庭子育て交流会」への協力、参加

### 5 宮城県里親会

H24年から共催を行っている里親サロンへの協力

### 6 あしぐる保育所

震災に関するケースへの助言

### あしなが育英会スタッフ対象ストレスマネジメント

あしなが育英会より依頼を受け、新人スタッフに対して、各月1回ストレスマネジメントを実施した。  
(開催場所:あしなが育英会東北事務所)

2013年 5月8日	あしなが育英会ストレスマネジメント(グループワーク、筋膜ケア*)
7月3日	あしなが育英会ストレスマネジメント(共同絵画)
9月4日	あしなが育英会ストレスマネジメント(コラージュ)
11月13日	あしなが育英会ストレスマネジメント(筋膜ケア)
2014年 1月22日	あしなが育英会ストレスマネジメント(筋膜ケア)

\*筋膜ケアとは、筋肉についている薄い膜である筋膜をほぐすことにより、血管やリンパの流れ、神経系の動きがよくなり、心身の疲労回復に効果が期待できるものである。

### スーパーバイズ事業

東部児童相談所里親担当対象に、困難な事例に対するスーパーバイズを実施。

2013年 4月26日	東部児童相談所里親担当スーパーバイズ(石巻市)
5月14日	東部児童相談所里親担当スーパーバイズ(石巻市)
7月9日	東部児童相談所里親担当スーパーバイズ(石巻市)
12月11日	東部児童相談所里親担当スーパーバイズ(石巻市)
2014年 3月11日	東部児童相談所里親担当スーパーバイズ(石巻市)

## 2 里親サロン

宮城県東部児童相談所、宮城県里親連合会と共催で、震災孤児を預かっている親族里親に対して、親族里親サロンを行っている。里親サロンは、“安心してゆっくりとくつろいでお話しできる場所”を目指したものであり、そのなかでは、ご家族を亡くされた思いや、祖父母の立場から、親の立場になったことでの養育の仕方に悩んでいるといった子育てについての話など、同じ立場だからこそ分かち合える場所としてご利用いただいている。

なお、里親サロンには、他者のお子さんを育てた経験がある養育里親にもチューター（チューターとは、個人のニーズに応じた先輩として手助けする人）として加わってもらい、震災で新たに親族里親になられた方々への支援をお手伝いいただいている。

今年度は、初めて石巻地区の親族里親、気仙沼地区の親族里親と、養育里親が合同で親睦会を開催し、子育てで忙しい合間をぬって、ひと時リラックスした、楽しい時を過ごしていただいた。

地域	回数	日時	場所
石巻	1	2013/7/3(水)	東部児童相談所
	2	2013/11/6(水)	東部児童相談所
	3	2014/2/6(木)	東部児童相談所
東松島	1	2013/6/19(水)	東松島市コミュニティセンター
	2	2013/9/25(水)	東松島市コミュニティセンター
気仙沼	1	2013/6/5(水)	本吉町公民館
	2	2013/10/2(水)	本吉町公民館
	3	2014/3/6(水)	本吉町公民館
名取	1	2013/8/1(木)	中央児童相談所
親睦会	1	2013/12/4(水)	南三陸ホテル観洋

3 震災子ども支援室主催による会議、シンポジウム、研修会など

●シンポジウム「東日本大震災後の支援の多様性～電話相談ができること～」

東日本大震災から今日までの2年10ヶ月の間、電話相談等で日常的に被災者支援に携わっていた方々の報告をもとに、電話相談から発生する支援の多様性、今後の電話相談における可能性等について議論をした。  
(平成26年2月1日(土)、東北大学文科系総合棟11階大会議室 参加者数39名)



仙台いのちの電話  
田中 玲子氏

報告1

仙台いのちの電話は、震災後の状況にどのように対応したか～被災者の切実な声は何を訴えていたか～

震災により、仙台いのちの電話が廃止して以降初めての相談業務を休止する事態となったが、間もなくフリーダイヤルによる「いのちの電話震災ダイヤル」相談をスタートさせた。並行して、相談員が地域に出向き、震災で大切な方を亡くした人の分かち合いの会や“ほっとカフェ”という集いを展開した。現在は、通常の相談業務に戻っているが、2013年11月に開設した石巻市分室と共に、今後も一人の声を大事にして寄り添って聴いていきたい。



からころステーション  
高柳 伸康氏

報告2

被災地からころステーション電話相談の現状

支援が行き届かない被災者宅を訪問し、必要な物資を配りながら健康相談を実施したのが活動の始まりであった。石巻市を拠点として東松島市・女川町の3つのエリアを対象とし、精神保健の専門職がチームで対応している。年中無休の無料電話相談から、来所相談や訪問等の互いに顔の見える支援へと繋げていくのが特徴的である。今後の課題は、相談に結びつきにくい年代への周知方法と、長期的な支援活動の整備を行うための資金面や体制だと考えている。



東北大学大学院教育学研究科  
震災子ども支援室“S-チル”  
平井 美弥

報告3

電話相談からみてきたもの～“S-チル”でのとりくみから～

広域な被災地を少ないスタッフで対応する手段として、2012年4月からフリーダイヤルの電話相談をスタートした。教育委員会を通じて宮城県内の小中高へチラシを配布し、子どもや家庭、地域等へ周知を図っている。時間の経過と共に、震災から引き起こされている問題の多様性や深刻化を感じている。震災に特化した電話相談の窓口が減少している今、電話でのお話に丁寧に向き合う事、関係機関との連携をさらに意識しながら、適切な情報を伝えていきたい。



「東日本震災後の支援の多様性～電話相談ができること～」  
(平成26年2月1日(土)実施) 報告書作成と配布





4 研修講師の派遣

- 1 宮城県里親会研修会『2012年度里親サロンの報告』  
里親会会員向け(平成25年5月16日:仙台市:講師・平井美弥)
- 2 南三陸町 保健部会研修会『セルフケア体験～投函しない手紙を書く』  
教員、支援者向け(平成25年8月8日:南三陸町:講師・加藤道代)
- 3 南三陸町 歌津中学校研修会『思春期とストレス』  
生徒、保護者、教員向け(平成25年10月31日:南三陸町:講師・加藤道代)
- 4 福島県相双郡教育事務所 道徳教育総合支援事業地区別推進協議会相馬郡新地町立駒ヶ嶺小学校研修会『学校、家庭、地域の連携が子どもの道徳性発達に与えるもの～つながる大人の中で育つということ～』  
小・中・高 教員向け(平成25年11月7日:相馬市:講師・加藤道代)
- 5 NPO法人チャイルドラインみやぎ主催『東日本大震災後の子ども・家庭支援の現状と課題』  
支援者向け(平成25年9月29日:仙台:講師・平井美弥)

5 会議、情報交換会出席

日 時	行 先
7月17日	第1回岩手県被災児童支援団体交流会(岩手県保健福祉課主催:盛岡市)
7月24日	第3回南三陸町子ども支援連絡調整会議(南三陸町保健福祉課主催:南三陸町)
8月29日	子どもの心のケア対策連絡会議(中央児童相談所主催:名取市)
9月5日	石巻・登米地域子どもの心のケア対策連絡会議(東部児童相談所主催:石巻市)
2月10日	大崎・登米地域子どもの心のケア対策連絡会議(北部児童相談所主催:大崎市)
3月18日	気仙沼管内精神保健医療福祉連絡会議(気仙沼保健福祉事務所主催:気仙沼市)

6 関連自治体・団体への訪問

日 程	行 先	日 程	行 先
平成25年 4月26日	宮城県東部児童相談所	7月22日	宮城県震災復興政策課
5月14日	宮城県東部児童相談所	10月17日	仙台いのちの電話
5月24日	仙台市教育局学校教育課	10月18日	宮城県東部保健福祉事務所
5月29日	宮城県教育庁	10月31日	南三陸町保健福祉課
6月7日	協会けんぽ 福島支部	12月11日	石巻教育委員会
6月11日	宮城県保健福祉部子育て支援課	12月26日	宮城県中央児童相談所
6月14日	みやぎ心のケアセンター	12月27日	宮城県教育庁教育企画室
6月17日	東北学院大学災害ボランティアステーション	12月27日	みやぎ心のケアセンター
6月18日	仙台いのちの電話	平成26年 1月10日	仙台いのちの電話
6月21日	宮城県中央児童相談所	2月20日	亘理町福祉課子ども家庭班
6月28日	仙台市若林区役所	3月1日	あしなが育英会仙台
7月19日	仙台市パーソナルサポートセンター“わっくわあく”	3月11日	宮城県東部保健福祉事務所

7 講演会、研修会等出席

日 程	内 容	出 席
6月1日	「うつ病の予防と早期発見」～深い喪失への支援を被災地に学ぶ～ (朝日新聞厚生文化事業団主催:仙台市)	加藤
7月27日	東日本大震災における支援者支援について(日本健康相談活動学会主催:仙台市)	大堀
9月1日	被災者・支援者/子どもに関するすべての人のための 「心理的ケア&サポートスキル」ワークショップ (震災復興心理・教育臨床センター主催:福島市)	平井
9月28日	公開シンポジウム“被災した子どもの発達・教育をどう支援するか” (日本教育心理学会主催:仙台市)	平井・大堀
1月25日	第7回震災心のケア交流会みやぎ「復興住宅と支援の在り方～二つの震災の経験から～」 本間道雄氏(新潟県精神保健福祉協会小千谷地域こころのケアセンター主任専門員・精神保健福祉士) 加藤寛氏(兵庫県こころのケアセンター センター長・精神科医) (みやぎ心のケアセンター主催:仙台市)	加藤・平井・大堀
2月22日	公開講演会“子どもと学校が元気になるスクールカウンセラーの活用” (お茶の水女子大学准教授 伊藤垂矢子氏)(東北大学大学院教育学研究科主催:仙台市)	加藤・平井・大堀
2月22日、23日	スクールカウンセラーのための震災支援研修 ワークショップ「すぐ活用できる学校という場を生かした支援のための工夫」 (お茶の水女子大学准教授 伊藤垂矢子氏)(東北大学大学院教育学研究科主催:仙台市)	加藤・平井・大堀
3月3日	「震災と子ども」研究会「震災孤児の未成年後見人について」 (花島伸行弁護士)(東北学院大学遠藤研究室主催:仙台市)	平井

8 支援室来室対応、情報交換

平成25年 4月3日	国際紙パルプ商事株式会社
4月25日	宮城県里親連合会
5月28日	財団法人学習能力開発財団「Lead」
6月25日	宮城県中央児童相談所
7月19日	みちのく未来基金
11月22日	二葉乳児院(東京都)
12月6日	徳島県立徳島科学技術高等学校教職員及び生徒 公益社団法人とくしま森とみどりの会(徳島県)

9 報道関係、来室対応

平成25年 5月31日	共同通信社
11月15日	河北新報社
平成26年 2月1日	朝日新聞(2/2掲載)
2月18日	東京新聞(3/11掲載)
2月21日	読売新聞(3/10掲載)

10 広報・出版物・報告書

1 宮城県子育て支援課作成  
みやぎっ子応援通信第5号“子ども・子育て  
応援団体からのお知らせ”欄に掲載

2 「震災子ども支援室」  
広報ポスター、チラシ、カードの作成、  
自治体と関連団体、学校に配布。



3 FREEPAPER(ままばれ宮城版)に掲載



4 東北大学オープンキャンパスに出展  
(平成25年7月30、31日)



5 “S-チル”ニュースレターの作成と配布



6 シンポジウム報告書『第5回東日本大震災後の  
支援の多様性～電話相談ができること～』の  
作成と配布



7 ホームページの刷新、フェイスブック更新

8 研修会資料の電子ジャーナル化  
(東北大学中央図書館)

11 その他の活動

1 「身体・生活状況確認シート」作成

3 「活動マニュアル」作成準備

2 「インシデント」報告書作成

4 相談記録管理システム更新

編集者

加藤 道代 東北大学大学院教育学研究科教授

震災子ども支援室室長

平井 美弥 震災子ども支援室相談員

押野 晶子 震災子ども支援室相談員

大堀 和子 震災子ども支援室相談員

平成25年度  
東北大学大学院教育学研究科  
震災子ども支援室 “S-チル”  
年次報告書

2014年5月30日

発行者 東北大学大学院教育学研究科 震災子ども支援室  
代表者 加藤 道代  
住所 仙台市青葉区川内27-1  
Tel/Fax 022-795-3263  
E-mail s.children@sed.tohoku.ac.jp